

中世哲学関係文献目録

(原則として 2008 年 4 月より 2011 年 3 月まで)
中世哲学会編／2011 年 7 月 20 日／8 月 1 日修正版

単行本

- 稲垣 良典 トマス・アクィナス『神学大全』(講談社) 09.11
〃 人格《ペルソナ》の哲学(創文社) 09.12
荻野 弘之 マルクス・アウレリウス『自省録』——精神の城塞(岩波書店) 09.7
荻野弘之編 続・神秘の前に立つ人間——キリスト教東方の靈性を拓く II(新世社) 10.3
小林 剛 アルベルトゥス・マグヌスの感覚論——自然学の基礎づけとしての(知泉書館) 10.11
小林春夫・阿久津正幸・仁子寿晴・野元晋編 イスラームにおける知の構造と変容——思想史・科学史・社会史的視点から(早稲田大学イスラーム地域研究機構) 11.3
近藤 恒一 新版 ペトラルカ研究(知泉書館) 10.12
佐々木 亘 共同体と共同善——トマス・アクィナスの共同体論研究(知泉書館) 08.10
Tetsuro SHIMIZU and Charles BURNETT (eds.), *The Word in Medieval Logic, Theology and Psychology*. Brepols, Turnhout, 09.12
谷 隆一郎 人間と宇宙的神化——証聖者マクシモスにおける自然・本性のダイナミズムをめぐって(知泉書館) 09.2
〃 アウグスティヌスと東方教父——キリスト教思想の源流に学ぶ(九州大学出版会) 11.3
谷隆一郎他 西洋哲学の誕生(放送大学教育振興会) 10.3
中川純男・田子山和歌子・金子善彦編 西洋思想における「個」の概念(慶應義塾大学出版会) 11.3
久松 英二 祈りの心身技法——十四世紀ビザンツのアトス静寂主義(京都大学学術出版会) 09.3
松崎 一平 アウグスティヌス『告白』——〈わたし〉を語ること……(岩波書店) 09.1
松田 美佳 マイスター・エックハルトの生の教説(行路社) 10.7
宮本 久雄 ヘブライ的脱在論——アウシュヴィッツから他者との共生へ(東京大学出版会) 11.4
宮本久雄・村上陽一郎他編 大学の智と共育——カトリック大学の未来を探る(教友社) 11.4
八木 雄二 天使はなぜ墮落するのか——中世哲学の興亡(春秋社) 09.12

翻訳

- イアンブリコス 普遍数学論 第 1-13 章邦訳 堀江聡他訳(新プラトン主義研究 10・新プラトン主義協会) 10.8
イブン・スィーナー 『治癒』形而上学訳註(第一巻第一章および第二章) 小林春夫・仁子寿晴・加藤瑞絵・倉澤理共訳(イスラーム地域研究ジャーナル 3・早稲田大学イスラーム地域研究機構) 11
エックハルト ラテン語著作集 III ヨハネ福音書註解 中山善樹訳(知泉書館) 08.7
P. エフドキーモフ 正教の教え〔第四部〕第三章「典礼(奉神礼)」 大森正樹訳(エイコーン 37・東方キリスト哲学会) 08.7

- オッカム 『七巻本自由討論集』 注解 III 渋谷克美訳註 編集協力・周藤多紀 (知泉書館) 08.9
- R. オットー 聖なるもの 久松英二訳 (岩波書店・岩波文庫) 10.2
- J. N. D. ケリー 初期キリスト教教理史・上——使徒教父からニカイア公会議まで 津田謙治訳 (一
麦出版社) 10.8
- 〃 初期キリスト教教理史・下——ニカイア以後と東方世界 津田謙治訳 (一麦出版社) 10.9
- トマス・アキナス 神学大全 第 21 冊 渋谷克美・松根伸治共訳 (創文社) 11.3
- 〃 神学大全 第 29-31 冊 稲垣良典訳 (創文社) 10.11
- 〃 神学大全 第 33-34 冊 稲垣良典訳 (創文社) 08.7
- 〃 神学大全 第 35-36 冊 稲垣良典訳 (創文社) 09.10
- 〃 「定期討論集 魂について 第十七問題 分離した魂は離在的諸実体を知性認識することが
できるか」 およびその平行箇所「対異教徒大全 第三卷第四十五章」と「任意討論 第三
討論第九問題第一項」 翻訳と註 井上淳訳 (南山神学 32・南山大学) 09.3
- 〃 「定期討論集 魂について 第十八問題 分離した魂は全ての自然的なるものを知性認識す
ることができるか」 翻訳と註 井上淳訳 (南山神学 34・南山大学) 10.3
- フィロカリア 第 4 巻 谷隆一郎・三嶋輝夫訳 (新世社) 10.6
- フィロカリア 第 7 巻 大森正樹訳 (新世社) 09.4
- プロクロス 悪の存立論 第 1-28 章邦訳 堀江聡他訳 (新プラトン主義研究 10・新プラトン主義協会)
10.8
- ペトラルカ=ボッカッチョ 往復書簡 近藤恒一編訳 (岩波書店・岩波文庫) 06.12
- ペトラルカ 無知について 近藤恒一訳 (岩波書店・岩波文庫) 10.3
- 作者不詳 (ペトルス・ニコラウス 羅訳) アリストテレスの神学 第十二章 [62^v]-[72^r] 堀江聡訳 (慶
應義塾大学言語文化研究所紀要 40) 08.3
- ポルフェリオス 新プラトン主義命題集成センテンチアエ——知性的なものへの跳躍台 第 1-32 章邦
訳 堀江聡・西村洋平訳 (日吉紀要 言語・文化・コミュニケーション 41・慶應義塾大
学) 09.12
- ポルフェリオス 新プラトン主義命題集成センテンチアエ——知性的なものへの跳躍台 第 33-44 章
邦訳 堀江聡・西村洋平訳 (西洋古典研究会論集 19) 10.7

研究論文

- 阿部 善彦 マイスター・エックハルトの生命論 (明日へ跳ぶ——人文社会学の新視点 1・風間書房)
08.3
- 〃 マイスター・エックハルトにおける語ることと聴くことについて (日本カトリック神学
会誌 19・日本カトリック神学会) 08.8
- 〃 エックハルトにおける〈ひらけ〉としての *grunt* の再考 (宗教研究 359・日本宗教学会)
09.3
- 〃 マイスター・エックハルトにおけるキリスト教的人間形成について (カトリック教育研
究 26・日本カトリック教育学会) 09.8
- 〃 神にひらかれた人間の内的圏域に関するエックハルトの思想について (日本カトリック
神学会誌 20・日本カトリック神学会) 09.8
- 〃 ドミニコ会士としてのマイスター・エックハルト (理想 683・理想社) 09.9

- // エックハルトの『ドイツ語説教』による共生学的展望へのエチュード——その言葉がひらきむすぶものに向けて（共生学 1・上智大学共生学研究会） 09.10
- // 石原謙のエックハルト研究について（思想史研究 11・東京大学大学院総合文化研究科 日本思想史思想論研究会） 10.3
- // エックハルトの初期ドイツ語著作『教導講話』について（カトリック研究 79・上智大学神学部） 10.8
- // ドミニコ会教育体制とエックハルト（カトリック神学会誌 21・日本カトリック神学会） 10.8
- // エックハルトの『教導講話』とその人間像——「信頼」、「愛」、「罪」、「悔悛」をめぐる（研究論叢 43・星美学園短期大学） 11.3
- // 日本におけるドイツ神秘思想研究——佐藤繁彦と石原謙の論争（思想史研究 13・東京大学大学院総合文化研究科 日本思想史思想論研究会） 11.4
- 飯塚 知敬 L. スプリイトにおける *Species Intelligibilis* の一考察——L. Spruit: *SPECIES INTELLIGIBILIS: FROM PERCEPTION TO KNOWLEDGE* v.1 「序」（長崎大学教育学部紀要人文科学 76・長崎大学教育学部） 10.3
- 稲垣 良典 「^{ペルソナ}人格」概念の神学的背景（純心人文研究 15・長崎純心大学） 09.3
- // 個人から人格へ——人格の哲学をめざして（聖マリア学院紀要 23・聖マリア学院） 09.3
- // 「キリストの存在論」試論（純心人文研究 16・長崎純心大学） 10.2
- // トマス・アクィナスの存在論における「存在」(I)（^{エッセ}純心人文研究 17・長崎純心大学） 11.2
- 井上 淳 トマス・アクィナスと環境問題——人間中心主義についての一考察（中世哲学研究 27・京大中世哲学研究会） 08.11
- // トマス・アクィナスにおける人間の魂の離在的諸実体の認識について（南山神学 33・南山大学） 10.3
- 上枝 美典 トマス・アクィナスにおける本質の構造——新たな普遍論に向けて（理想 683・理想社） 09.9
- UEEDA, Yoshinori, Thomas Aquinas, Being and Actuality (*The Word in Medieval Logic, Theology and Psychology*, Brepols) 09.12
- 大森 正樹 アトスの修道者ニケフォロスにおける東方靈性（ヘシカズム）のかたち（エイコーン 38・東方キリスト教学会） 08.12
- // 「ヌース」考（アカデミア 人文社会科学編 90・南山大学） 10.1
- // ディオニュシオス『神名論』における「テアルキア」について（南山神学 33・南山大学） 10.3
- // 秘義的秘跡と観想——擬ディオニュシオス『教会位階論』（第一章，第二章より）の構造（中世哲学研究 29・京大中世哲学研究会） 10.11
- 小川 量子 ヨハネス・ドゥンス・スコトゥスにおける罪の問題（フランシスカン研究 4「フランシスコ会学派における自然と恩恵」・教友社） 10.1
- // ドゥンス・スコトゥスにおける個の問題（西洋思想における「個」の概念・慶應義塾大学出版会） 11.3
- 荻野 弘之 ギリシア教父と否定神学の系譜——聖書釈義とプラトン主義の伝統に即して（続・神秘の前に立つ人間・新世社） 10.3
- // ラテン教父におけるストア派倫理学の受容と変容（中世思想研究 52・中世哲学会） 10.10

- 〃 日付が生まれるとき——カイロスをめぐる試論（詩と思想 289・土曜美術社出版販売）
10.10
- 〃 道徳（徳）は教えられうるか（倫理学年報 60・日本倫理学会） 11.3
- 加藤 雅人 存在は述語か？——W. Kneale と G. E. Moore の論争（1936）（哲学 27・関西大学哲学
会） 09.3
- 〃 トミズム——ヨーロッパカトリシズムの伝統（国境なきヨーロッパ——文学と思想にお
ける異文化接触の形・関西大学出版部） 10.5
- 〃 現代意味論・語用論の観点からみた中世存在論の再解釈（基盤研究（C）2006-2009・科
研費報告） 10.5
- 〃 全体と部分——中世メレオロジー序論（哲学 29・関西大学哲学会） 11.3
- KATO, Masato, A Semantic and Pragmatic Analysis of Aquinas' ESSE（哲学 28・関西大学哲学会）
10.3
- 菊地 伸二 信ずることをめぐるアウグスティヌスの理解——『見えないものへの信仰』を中心に（平
安女学院大学研究年報 9・平安女学院大学） 09.3
- 〃 「信」をめぐるアウグスティヌスの理解（名古屋柳城短期大学研究紀要 32・名古屋柳城
短期大学） 10.12
- 北川 恵 アウグスティヌス『音楽論』第六巻における〈数 numeri〉の認識について（上智哲学誌
21・上智大学大学院哲学研究科） 09.3
- 〃 音楽における感情体験について——アウグスティヌスによる〈東方〉の音楽体験とその
受容の問題（エイコーン 39/40・東方キリスト教学会） 09.12
- 〃 アウグスティヌス『音楽論』第六巻における魂の鍛錬（パトリスティカ 14・教父研究会）
10.12
- 河野 一典 アウグスティヌスの創造論におけるギリシア哲学概念の変容——永遠・時間と形相・質
料（新プラトン主義研究 9・新プラトン主義協会） 09.8
- 神門しのぶ アウグスティヌスにおける〈教え〉の諸相——『教師論』から『教えの手ほどき』へ（中
世思想研究 51・中世哲学会） 09.10
- 〃 アウグスティヌス教育思想研究の問題点（教育哲学研究 101・教育哲学会） 10.5
- 小林 剛 アルベルトゥス・マグヌスにおける数量認識について（哲学論集 37・上智哲学会） 08.9
- 〃 アルベルトゥス・マグヌスにおける数学的量について（紀要哲学 51・中央大学） 09.2
- 〃 アルベルトゥス・マグヌスの触覚論（中世哲学研究 28・京大中世哲学研究会） 09.11
- 〃 アルベルトゥス・マグヌスの生命論——『動物論』第 16 巻第 1 論考第 7 章と第 11 章（紀
要哲学 51・中央大学） 10.2
- 〃 自然学の基礎としての表象力，評定力——アルベルトゥス・マグヌスのアヴィセンナと
の比較（中世思想研究 52・中世哲学会） 10.10
- 〃 『治癒の書』からアルベルトゥス・マグヌスへ——触覚をめぐる（イスラームにおけ
る知の構造と変容・早稲田大学イスラーム地域研究機構） 11.3
- 斎藤 大樹 アンセルムスにおける理性についての一試論（同志社哲学年報 31・Societas Philosophiae
Doshisha） 08.9
- 〃 アンセルムス『真理について』における「正直」（rectitudo）概念（哲学論究 23・同志
社大学哲学会） 09.7
- 〃 アンセルムスにおける信仰について——『モノロギオン』における三位一体論を中心に
（哲学論究 24・同志社哲学会） 10.7

- 〃 アンセルムスの幸福主義——意志決定における正直と有益性のかかわりから（倫理学研究 41・関西倫理学会） 11.4
- 佐々木 徹 カンタベリーの聖アンセルムスの『御ことばの受肉についての書簡』をめぐって（日本カトリック神学会誌 19・日本カトリック神学会） 08.8
- 〃 意志の自由についての神学的考察（茨城キリスト教大学紀要 42・茨城キリスト教大学） 08.12
- 〃 聖アンセルムスの人間論（言語文化研究所紀要 15・茨城キリスト教大学言語文化研究所） 09.6
- 〃 神の存在の論証をめぐって——聖トマスと聖アンセルムス（茨城キリスト教大学紀要 43・茨城キリスト教大学） 09.12
- 〃 聖アンセルムスにおける《聖体の秘蹟》（日本カトリック神学会誌 21・日本カトリック神学会） 10.8
- SASAKI, Toru, Gottes Sein als Vater und als Mutter in der Theologie des hl. Anselm von Canterbury（言語文化研究所紀要 14・茨城キリスト教大学言語文化研究所） 08.6
- 佐々木 亘 正義における美の秩序——トマス・アキナスにおける正義の美的可能性について（自由の普遍性と正義の超越性——トマス・アキナスにおける人間論の展望・科学研究費補助金 No.16520031 成果報告書） 08.5
- 〃 永遠法と自然法——トマス・アキナスにおける自然法の超越性について（鹿児島純心女子短期大学研究紀要 39・鹿児島純心女子短期大学） 09.1
- 〃 対神徳の可能性——トマス・アキナスにおける徳の区別について（鹿児島純心女子短期大学研究紀要 39・鹿児島純心女子短期大学） 09.1
- 〃 幸福への問い——トマス・アキナスの幸福論に関する一考察（鹿児島純心女子短期大学研究紀要 40・鹿児島純心女子短期大学） 10.1
- 〃 自然法とは何か——トマス・アキナスの自然法論に関する一考察（鹿児島純心女子短期大学研究紀要 40・鹿児島純心女子短期大学） 10.1
- 〃 ペルソナと自然法——トマス・アキナスにおけるペルソナの多元性をめぐって（日本カトリック神学会誌 21・日本カトリック神学会） 10.8
- 〃 トマス・アキナスにおける人間の宗教的超越性——経済主体の多元性（経済社会学会年報 32・経済社会学会） 10.9
- 〃 目的の個別性と普遍性——トマス・アキナスの目的論に関する一考察（鹿児島純心女子短期大学研究紀要 41・鹿児島純心女子短期大学） 11.1
- 芝元 航平 トマス・アキナスにおける存在と本質の「実在的」区別について（中世思想研究 51・中世哲学会） 09.10
- 島田佳代子 情念（*passio*）と徳（*virtus*）——トマス・アキナスにおける、‘*misericordia*’の位置付け（純心人文研究 15・長崎純心大学） 09.2
- 〃 神的なことから *divina* を受ける *passio* こと——トマス・アキナスにおける「意志」と「情念」（純心人文研究 16・長崎純心大学） 10.2
- 〃 日本の社会福祉制度の問題点と、カトリック社会福祉の目指すべきもの——トマス・アキナスの「施し（*eleemosyna*）」論を手掛かりに（カトリック社会福祉研究 11・長崎純心大学カトリック社会福祉研究所） 11.3
- 周藤 多紀 神の存在論証／存在の一義性／スアレス『形而上学討論集』（岩波講座哲学 2 形而上学の現在・岩波書店） 08.8

- SUTO, Taki, *Boethius on Language, Mind, and Reality: A Study of Boethius' Commentary on Perihermeneias* (Ph. D. dissertation, Saint Louis University, Pro Quest Information and Learning) 08.5
- 〃 *Logic and Grammar in Boethius: A Logical Analysis of the Parts of Speech (The Word in Medieval Logic, Theology and Psychology, Brepols)* 09.12
- 谷 隆一郎 身体の聖化——宗教哲学の一視点 (宗教研究 361・宗教学会) 09.9
- 〃 神経験と信の志向的構造——ニュッサのグレゴリオスと証聖者マクシモスを中心として (日本カトリック神学院紀要創刊号・日本カトリック神学院) 10.3
- 〃 神的エネルギーの経験と信——ロゴス・キリストを信じるとはいかなることか (パトリステイカ 14・教父研究会) 10.12
- 谷口 茂 宗教教育の位置と目的 (日本カトリック神学会誌 19・日本カトリック神学会) 08.8
- 〃 神の知は進化思想に溶解されるのか——トマス神学とデネットが再構築した進化思想 (中部哲学会年報 41・中部哲学会) 10.2
- 〃 恩寵として自然を受取りうる根拠 (日本カトリック神学会誌 21・日本カトリック神学会) 10.8
- 津田 謙治 場と神の唯一性——反異端教父の修辞学及び哲学的反駁 (日本の神学 47・日本基督教学会) 08.9
- 〃 古代教父思想における「時間」概念——エイレナイオス『異端反駁』の議論を中心として (基督教学研究 28・京都大学基督教学会) 08.12
- 〃 善なる神と被造物における悪——ヘルモゲネスの神義論的問題 (宗教と倫理 9・宗教倫理学会) 09.10
- 〃 テルトゥリアヌスとストア主義——魂に関する議論を中心として (カルチュラル 5・明治学院大学) 11.3
- 土橋 茂樹 ウーシア論の展開として見た三位一体論——バシレイオス研究序説 (中世哲学研究 27・京大中世哲学研究会) 08.11
- 〃 修道制の成立にかかわる三つの問い (エイコーン 38・東方キリスト教学会) 08.12
- 〃 バシレイオス『聖霊論』におけるプロティノスの影響 (新プラトン主義研究 9・新プラトン主義協会) 09.8
- 〃 三位一体論をめぐるバシレイオス-エウノミオス論争と固有名の問題 (哲学論集 38・上智大学哲学会) 09.10
- 〃 バシレイオスのウーシア-ヒュポスタシス論 (中世思想研究 51・中世哲学会) 09.10
- 〃 アパテイアの多義性と「慰めの手紙」——東方教父におけるストア派の両義的影響 (中世思想研究 52・中世哲学会) 10.10
- 〃 洞窟に降り来った太陽——教父思想への「洞窟の比喩」の影響史 (理想 686・理想社) 11.3
- TSUCHIHASHI, Shigeki, *Ps-Macarius, the Monastic Standing on the Threshold* (人文研紀要 64・中央大学) 08.8
- 〃 *The Theological and Philosophical Background of Basil of Caesarea's Trinitarian Theory: Focusing on the Comparison between his Works and "his" Ep. 38 (Scrinium 4, Revue de patrologie, d'hagiographie critique et d'histoire ecclesiastique)* 08.12
- 〃 *Homotimia and synarithmesis in Basil of Caesarea's De Spiritu Sancto (Studia Patristica 47, International Association of Patristic Studies)* 10.7

- 永嶋 哲也 普遍実在論者の status と唯名論者の status——西欧初期中世の普遍論争における存在了解（自然と文化 35・福岡歯科大学・福岡医療短期大学）08.11
- 〃 老いることと徳の成就——キケロー『老年について』を手がかりに（福岡歯科大学学会雑誌 34・福岡歯科大学学会）08.12
- 〃 恋愛感情と感情表現と恋愛の範型——恋愛 12 世紀発明説の再検討（自然と文化 36・福岡歯科大学・福岡医療短期大学）09.11
- 〃 悲劇を生む狂気と神聖な感情——恋愛が「発明」される前の恋愛の形（自然と文化 37・福岡歯科大学・福岡医療短期大学）10.12
- 中山 善樹 マイスター・エックハルト（哲学の歴史 3 神との対話 中世・中央公論新社）08.1
- 〃 エックハルト『ヨハネ福音書註解』に対する若干の註釈の試み（文化学年報 57・同志社大学文化学会）08.3
- NAKAYAMA, Yoshiki, Bemerkungen zu den lateinischen Predigten Meister Eckharts (M. Gerwing und H. J. F. Reinhardt (hrsg.), *Wahrheit auf dem Weg: Festschrift für Ludwig Hödl zu seinem 85. Geburtstag*, Aschendorff, Münster) 09.12
- 樋笠 勝士 ストア派の哲学とプロティノス（新プラトン主義研究 9・新プラトン主義協会）09.8
- 〃 アウグスティヌスにおける「音楽」の概念——「魂論」としての『音楽論』（パトリステイカ 13・教父研究会）09.12
- 〃 「神の摂理」——ストア派と教父思想（中世思想研究 52・中世哲学会）10.9
- 〃 ストア派の「詩学」（ギリシャ哲学セミナー論集 8）11.3
- HIKASA, Katsushi, Augustine on the Aesthetics of Ambivalence (*Aesthetics* 13, The Japanese Society for Aesthetics) 09.4
- 久松 英二 カップドキア三教父の靈性（その二）——神秘思想の父ニュッサのグレゴリオス（神戸海星女子学院大学研究紀要 46・神戸海星女子学院大学）08.3
- 〃 ヘシュカズム——14 世紀ビザンツの神秘主義運動（キリスト教史学 64・キリスト教史学会）10.7
- 〃 ビザンツ・ヘシュカズムの靈性（宗教研究 365・日本宗教学会）10.9
- HISAMATSU, Eiji, Zur hesychastische Übung: Übersetzung des griechischen Texts des Kallistos Telikoudes aus der Philokalia（神戸海星女子学院大学研究紀要 47・神戸海星女子学院大学）09.3
- 〃 Der geistliche Aufstieg bei Evagrius Ponticus（神戸海星女子学院大学研究紀要 48・神戸海星女子学院大学）10.3
- 藤本 温 アクィナスの規則論（アルケー18・関西哲学会）10.6
- 〃 『原因論』と一三世紀のスコラ学（新プラトン主義研究 10・新プラトン主義協会）10.8
- 堀江 聡 プロクロス『神学綱要』の活動還帰と実体還帰（新プラトン主義研究 10・新プラトン主義協会）10.8
- 松崎 一平 hominibus か humilibus か——Augustinus, *Confessiones*, X, 43, 68（フォルム・アウグスティヌスアヌム創刊号・富山大学人文学部・富山大学人文学部哲学・人間学コース人間学分野有志）10.3
- 〃 ... maxime in illo furto, ... ——Augustinus, *Confessiones*, II, 8, 16（*Vestigia Cordis* 創刊号・アウグスティヌス研究会）10.12
- 〃 arcana praesensio——Augustinus, *Confessiones*, XI, 18, 24（フォルム・アウグスティヌスアヌム 2・富山大学人文学部哲学・人間学コース人間学分野有志）11.3

- MATSUZAWA, Hiroki (松沢裕樹), Eine Studie zu Meister Eckharts Analogielehre: im Vergleich zur Analogielehre bei Thomas von Aquin (哲学世界 31・早稲田大学大学院文学研究科哲学専攻) 09.1
- 松根 伸治 トマスにおける《高邁》magnanimitas の位置づけ (南山神学 33・南山大学) 10.3
- 水落 健治 子どもはいかにして言語を学ぶか——アウグスティヌス『告白』1.8.13 の解釈 (社会学・社会福祉学研究 129・明治学院大学) 08.12
- 〃 初期アウグスティヌスとアリストテレス——ひとつの試論として (カルチュラル 3.1・明治学院大学教養教育センター) 09.3
- 〃 ギリシア哲学とキリスト教との出会い——ユスティノス『ユダヤ人トリュフォンとの対話』序文を読む (理想 683・理想社) 09.9
- 〃 アウグスティヌスの〈自然的しるし〉signum naturale——その資料的起源について (カルチュラル 4.1・明治学院大学教養教育センター) 10.3
- 〃 ユスティノスのストア哲学批判——キリスト教がギリシア哲学を受容する前提をめぐって (中世思想研究 52・中世哲学会) 10.10
- 宮川 俊行 「誓約的親子関係」論——要養護児「家庭的養護」の福祉倫理的考察 (カトリック社会福祉研究 3・長崎純心大学) 03.1
- 〃 健康を巡る諸問題——カトリック社会福祉論的考察 (カトリック社会福祉研究 4・長崎純心大学) 04.2
- 〃 「人類代表者イエス・キリスト」の神学 (純心人文研究 11・長崎純心大学) 05.3
- 〃 エウカリスティア誕生の旧約的背景——カトリック秘跡神学的考察 (純心人文研究 12・長崎純心大学) 06.3
- 〃 「聖体の秘跡におけるキリストの臨在」のカトリック神学 (純心人文研究 13・長崎純心大学) 07.3
- 〃 罪について——カトリック神学的一考察 (純心人文研究 14・長崎純心大学) 08.3
- 〃 「イエスの十字架上の死」のカトリック神学的考察 (純心人文研究 15・長崎純心大学) 09.3
- 〃 隣人愛を巡って——トマス社会福祉倫理的考察・中 (カトリック社会福祉研究 9・長崎純心大学) 09.3
- 〃 個的人間生命の不可侵性について——トマス主義自然法倫理的考察 (生命という価値——その本質を問う・九州大学出版会) 09.4
- 〃 創造と進化——カトリック神学的一考察 (純心人文研究 16・長崎純心大学) 10.2
- 〃 隣人愛を巡って——トマス社会福祉倫理的考察・下 1 (カトリック社会福祉研究 10・長崎純心大学) 10.3
- 〃 「超自然」の三位一体論的基礎について (純心人文研究 17・長崎純心大学) 11.2
- 〃 隣人愛を巡って——トマス社会福祉倫理的考察・下 2 (カトリック社会福祉研究 11・長崎純心大学) 11.3
- 〃 西欧中世における医療概念 (医療の本質と変容——伝統医療と先端医療のはざままで・九州大学出版会) 11.3
- 宮本 久雄 哲学の歴史／教父の思想史 (カトリック神学への招き・上智大学出版) 09.4
- 〃 現代におけるトマス・アクイナスの意義——〈在るもの・ens〉および知性の超越性をめぐって (哲学論集 38・上智大学哲学会) 09.10
- 〃 身体を張る (extendere) アウグスティヌス——『告白』における distendere, continere,

- extendere をめぐって (パトリスティカ 13・教父研究会) 09.12
- 〃 キリスト教神学の誕生とその伝承——ギリシア教父から西洋スコラ神学へ (大学の智と共育・教友社) 11.4
- MIYAMOTO, Hisao, *La naissance de l'Ehiyehlogie. Au-delà de la pensée bouddhique et de l'ontothéologie (Diogène 207, La philosophie au Japon, Presses Universitaires de France) 09*
- 村上 寛 マルグリット・ポレートの自然本性概念について (早稲田大学大学院文学研究科紀要 55・早稲田大学大学院文学研究科) 10.2
- 〃 マルグリット・ポレートの『単純な魂の鏡』について (哲学世界 32・早稲田大学大学院文学研究科人文科学専攻哲学コース) 10.2
- 〃 マルグリット・ポレート——ベギンにおける自立と分離の問題 (共生学 3・上智大学共生学研究会) 10.3
- 〃 自由心霊派とマルグリット・ポレート (エクフランス 1・ヨーロッパ中世・ルネサンス研究所) 11.3
- 矢内 義顕 9世紀のムハンマド伝 (文化論集 33・早稲田大学商学同攻会) 08.9
- 〃 アンセルムスとベックの修道院学校 (文化論集 34・早稲田大学商学同攻会) 09.3
- 〃 カンタベリーのアンセルムスにおける寛容の思想 (「いのち」の流れ——峰島旭雄先生傘寿記念論文集・北樹出版) 09.8
- 〃 ペトルス・アルフォンシイとイスラーム (文化論集 35・早稲田大学商学同攻会) 09.9
- 〃 11-12世紀における二つの学校——ベックとラン (中世思想研究 51・中世哲学会) 09.10
- 〃 研究報告: ノーザンのギベールとイスラーム (宗教研究 363・日本宗教学会) 10.3
- 〃 研究報告: ギルベルトゥス・クリスピヌス『キリスト教徒とユダヤ人の討論』 (宗教研究 367・日本宗教学会) 11.3
- 〃 13世紀の一修道士がみた十字軍とイスラーム——ハイスターバッハのカエサリウス『奇跡についての対話』から (早稲田商學 427・早稲田大学商学同攻会) 11.3
- 八木 雄二 ヨハネス・ドゥンス・スコトゥスにおける信仰と科学 (フランシスカン研究 4「フランシスコ学派における自然と恩恵」・教友社) 10.1
- 保井 亮人 トマス・アキナスの習慣 (habitus) 概念 (同志社哲学年報 31・同志社哲学会) 08.9
- 〃 トマス・アキナス『ヨハネ福音書講解』における恩恵論 (同志社哲学年報 33・同志社哲学会) 10.9
- 〃 トマス・アキナス『ヨハネ福音書講解』における神の世界内在について (中世思想研究 52・中世哲学会) 10.10
- 八巻 和彦 クザーヌスにおける理性の普遍性と哲学の複数性——『信仰の平和』を中心にして (「いのち」の流れ——峰島旭雄先生傘寿記念論文集・北樹出版) 09.8
- 〃 ニコラウス・クザーヌス (理想 683・理想社) 09.9
- 〃 現代に生きる中世 (哲学論集 38・上智大学哲学会) 09.10
- 〃 西欧における〈開かれた世界と開かれた書物〉 (石川文康, 多元的世界観の共存とその条件・国際高等研究所報告書) 10.2
- 〃 哲学と信仰——ニコラウス・クザーヌスにとって哲学は何であったのか (日本の哲学 10・日本哲学史フォーラム) 10.12
- 〃 現代における宗教的多元論の要請 (共生学 5・上智大学共生学研究会) 11.2
- 〃 〈文明の衝突〉を超える視点 (文化論集 427・早稲田商学同攻会) 11.3

- YAMAKI, Kazuhiko, Universalität der Vernunft und Pluralität der Philosophie in “De pace fidei” des Nikolaus von Kues (K. Reinhardt, H. Schwaetzer (hrsg.), *Universalität der Vernunft und Pluralität der Erkenntnis bei Nicolaus Cusanus*, Roderer Verlag, Regensburg) 08.10
- ” Cusanus als Europäer? Im Gespräch mit Martin Thomé (U. Hangert, W. Port, K. B. van Lier (hrsg.), *Europa Gestalten: Das Erbe des Nikolaus von Kues*, Aschendorff Verlag, Münster) 08.12
- ” Die doppelte Struktur der Subjektivität im Denken des Nikolaus von Kues: unter besonderer Berücksichtigung des Sehens (videre) (W. A. Euler, Y. Gustafsson, I. Wikström (eds.), *Nicholas of Cusa on the Self and Self-Consciousness*, Abo Akademi University Press) 10.2
- ” Die cusanische Entdeckung des Begriffs ‘idem absolutum’ als Gott vom Jahr 1447 (J. M. Machetta, C. D’Amico (eds.), *Nicolás de Cusa: Identidad y Alteridad, Pensamiento y Diálogo*, Editorial Biblos, Buenos Aires) 10.10
- ” Der Blick vom Rande und zum Rande im Denken des Nikolaus von Kues (W. C. Schneider, H. Schwaetzer, M. de Mey, I. Bocken (hrsg.), “*videre et videri coincidunt*”: *Theorien des Sehens in der ersten Hälfte des 15. Jahrhunderts*, Aschendorff Verlag, Münster) 11.1
- 山崎 裕子 アンセルムスによる聖母マリアの理解 (宗教研究 359・日本宗教学会) 09.3
- ” スコラ哲学前夜におけるストア派倫理学——アンセルムスの *rectitudo* をめぐって (中世思想研究 52・中世哲学会) 10.10
- ” アンセルムスと「聖母マリアへの祈り」——なぜアンセルムスはマリアを「世界の和解者」と称したのか (文教大学国際学部紀要 21-2・文教大学国際学部) 11.1
- YAMAZAKI, Hiroko, Reconciler of the World: Anselm’s Understanding of Saint Mary (S. Bafia and M. Urban (eds.), *Fides et Ratio*. Pontifical University of John Paul II in Cracow, Faculty of Philosophy) 10
- 山本 芳久 アラビア語キリスト教の世界——イスラーム治下のキリスト教神学 (創文 516・創文社) 09.2
- ” 盛期スコラ学における制度と学知——トマス『神学大全』の方法論としての「引用」と「区別」 (中世思想研究 51・中世哲学会) 09.9
- ” 西洋中世哲学の研究動向——多元化の現状と今後の課題 (西洋中世研究 1・西洋中世学会) 09.12
- ” アヴェロエス『決定的論考』における「法」と「哲学」の調和 (国際社会科学 60・東京大学大学院総合文化研究科国際社会科学専攻) 11.3
- YAMAMOTO, Yoshihisa, Thomas Aquinas on the Ontology of Amicitia: Unio and Communicatio (*Proceedings of the American Catholic Philosophical Association* 81) 08

書評

- 井上 淳 Martin Rhonheimer, *The Perspective of the Acting Person: Essays in the Renewal of Thomistic Moral Philosophy*. Edited with an introduction by W. F. Murphy, Jr. CUAP,

- 2008 (中世思想研究 52・中世哲学会) 10.10
- 大森 正樹 久松英二著『祈りの心身技法——十四世紀ビザンツのアトス静寂主義』京都大学学術出版会, 2009 (日本の神学 49・日本基督教学会) 10.9
- 菊地 伸二 Gerald Bonner, *Freedom and Necessity: St. Augustine's Teaching on Divine Power and Human Freedom*. CUAP, 2007 (中世思想研究 50・中世哲学会) 08.9
- 小林 剛 Rahim Acar, *Talking About God and Talking About Creation: Avicenna's and Thomas Aquinas' Positions*. Brill, Leiden/Boston, 2005 (中世思想研究 51・中世哲学会) 09.10
- 谷 隆一郎 J. メイエンドルフ『ビザンティン神学——歴史的傾向と教理的主題』鈴木浩訳, 新教出版社, 2009 (本のひろば・キリスト教文書センター) 09.6
- 土橋 茂樹 谷隆一郎著『人間と宇宙的神化——証聖者マクシモスにおける自然・本性のダイナミズムをめぐる』を読んで (エイコーン 39/40・東方キリスト教学会) 09.12
- ” Stephen M. Hildebrand, *The Trinitarian Theology of Basil of Caesarea: A Synthesis of Greek Thought and Biblical Truth*. CUAP, 2007 (中世思想研究 52・中世哲学会) 10.10
- 久松 英二 土井健司著『司教と貧者——ニュッサのグレゴリオスの説教を読む』新教出版社, 2007 (宗教研究 356・日本宗教学会) 08.6
- ” 戸田聡著『キリスト教修道制の成立』創文社, 2008 (キリスト教史学 63・キリスト教史学会) 09.7
- 松崎 一平 Philip Burton, *Language in the Confessions of Augustine*. Oxford UP, 2007 (中世思想研究 51・中世哲学会) 09.9
- 八巻 和彦 池上俊一著『ヨーロッパ中世の宗教運動』名古屋大学出版会, 2007 (宗教研究 356・日本宗教学会) 08.6
- 山本 芳久 トマス「人格《ペルソナ》」論の挑戦 (創文 531・稲垣良典『人格《ペルソナ》の哲学』を読む・創文社) 10.6